

学校における緊急時（アナフィラキシー発症時）の対応について

平時からの備え（全教職員に徹底すること）

各学校に「食物アレルギー対応委員会」を設置

■メンバー

管理職、養護教諭、学級担任、栄養職員など

■実施内容

1 アレルギー疾患のある児童・生徒の把握と対応決定

- (1) 「学校生活管理指導表」に関する情報共有
- (2) 「緊急時対応カード」の準備と保管場所の共有
- (3) エピペン®の保管場所の確認

2 校内全体での取組

- (1) 定期的な校内研修の実施（エピペン®トレーナー実習含む）
- (2) ヒヤリハット事例の検証
- (3) 定期的な校内訓練の実施

緊急時における教職員の役割分担の明確化

緊急時に必要となる役割を明確にし、あらかじめシミュレーションをしておく。

ポイント

- (1) 管理職がリーダーとなり、状況を把握し、教職員に指示する。
- (2) 短時間で対応できるよう、複数人に分担する。
- (3) 管理職、養護教諭、学級担任が不在の場合も想定し、全員が対応できるようにする。

緊急時対応のフローチャート

初期対応

応援体制の確保

★アレルギー症状があったら、5分以内に判断する。
 ★迷ったら、エピペン®を打つ。
 ★ただちに119番通報をする。

★エピペン®使用と救急車要請のタイミング

症状が、以下の1つでも該当する場合

- ・ぐったり
- ・意識もうろう
- ・尿や便を漏らす
- ・脈が触れにくいまたは不規則
- ・唇や爪が青白い
- ・のどや胸が締め付けられる
- ・声がかすれる
- ・犬が吠えるような咳
- ・息がしにくい
- ・持続する強い咳き込み
- ・ゼーゼーする呼吸（ぜん息発作と区別できない場合を含む）
- ・持続する強い（がまんできない）お腹の痛み
- ・繰り返し吐き続ける

管理職

- 現場に到着し次第、リーダーとなる。
- それぞれの役割の確認および指示
- ★エピペン®の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDを使用

発見者「観察」

- 子供から離れず観察
- 助けを呼び、人を集める（大声または、他の子供に呼びに行かせる。）
- 教職員A、Bに「準備」「連絡」を依頼
- 管理者が到着するまでリーダー代行となる。
- ★エピペン®の使用または介助
- 薬の内服介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

教職員A班「準備」

- 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を持ってくる。
- エピペン®の準備
- AEDの準備
- 内服薬の準備
- ★エピペン®の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDを使用

教職員B班「連絡」

- ★救急車を要請する（119番通報）
- 管理職を呼ぶ
- 保護者への連絡
- さらに人を集める（校内放送など）

教職員C「記録」

- 観察を開始した時刻を記録
- エピペン®を使用した時刻を記録
- 内服薬を飲んだ時刻を記録
- 5分ごとに症状を記録

教職員D班「その他」

- 他の子供への対応
- 救急車の誘導
- ★エピペン®の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用